

市民活動サポートセンター いなぎ

# ニュースレター

## No. 13

2007. 4. 15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

### ▼昨年実施したフェスティバルでのグループワーク



■日時／平成19年6月24日(日)  
10:00~16:00

■会場／稲城市地域振興プラザ4階会議室

■主催／いなぎ市民活動フェスティバル2007  
実行委員会/NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ/稲城市

※実行委員会には、サポートセンター運営スタッフのほか、利用登録団体、一般の市民の方にも参加していただいています。

# 「いなぎ市民活動フェスティバル2007」

市民活動サポートセンターいなぎの活動も4月から3年目に入りました。これを機に右のように「フェスティバル2007」を行うことになりました。今年も楽しい集いに行いたいと思いますので、大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

### 【プログラム】

●午前の部・・・利用登録団体による  
パネルディスカッション

《昼休憩時・・・アトラクション》

●午後の部・・・ワークショップ

【連絡先】 市民活動サポートセンターいなぎ(市役所協働推進課内)  
電話 042-378-2112  
FAX 042-378-6971

## ●サポートセンターいなぎが参加型の組織に変身

# ネットワークを広げるためにも ぜひプロジェクトにご参加を！

「市民活動サポートセンターいなぎ」は、法人化をきっかけに、組織を大幅に変えました。そしてそれによって、会員に限らず市民の方の誰もが、サポートセンターの活動に日常的に関わることができるようになりました。

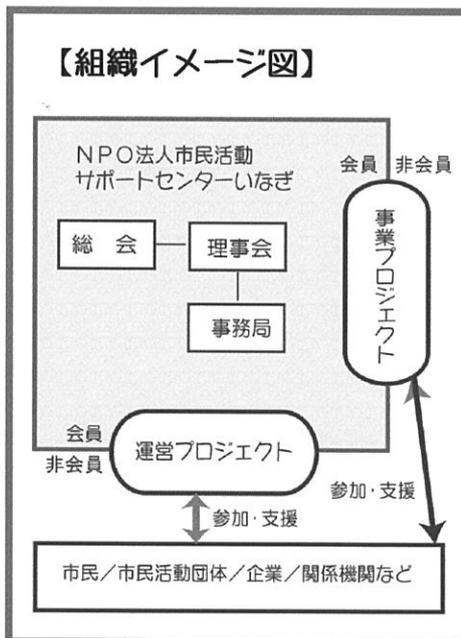
### ●なぜ組織を変えたのか

その狙いは、多くの市民の皆さんに、日頃から活動に参加していただくようにするためです。これまではすべて理事会が中心になって、会運営の細かいところまで決めてきましたが、今後はできるだけ各プロジェクトに権限を下ろして、プロジェクト中心の会運営にしていこうというのが新しい組織の考え方です。それらのプロジェクトは必要に応じて立ち上げ、役割を終えたら解散するといったように柔軟な組織として考えています。

### ●どんな組織になったの？

年間の予算や事業計画、定款や役員の変更など、重要な案件は従来どおり理事会で決定していきますが、そこで承認を受けた個々の活動については、それぞれのプロジェクトがその判断と責任によって進めることとなります。ただし、そこで判断しきれない課題が生じた場合には理事会に報告し、そこで判断又は決定します。

### 【組織イメージ図】



現在次のプロジェクト（以下「PJ」）が始動しています。

#### 【事業プロジェクト】

様々な事業を推進するためのプロジェクトです。

- ・ 市民活動講座PJ（4講座を予定）
- ・ 市民活動フェスティバルPJ
- ・ 利用登録団体交流会PJ
- ・ ハッピーリタイアメント講座PJ
- ・ 市民活動団体との共同企画事業PJ

#### 【運営プロジェクト】

サポートセンターの運営を日常的に支えていくためのプロジェクトです。

- ・ ニュースレター等発行PJ
- ・ 金曜サロン運営PJ
- ・ ホームページ運営PJ

- ・ 基金PJ（市民活動を助成するための基金の創設と運営）
- ・ 相談業務PJ

### ●法人の会員でないと参加できないの？

この組織を改正するにあたって一番大事にしたことは、サポートセンターの運営に、市民であれば誰もが、日常的に参加できるようにしたこと。講座などへの参加だけでなく、運営の主体として参加していただくことを重視しました。

ということで、プロジェクトには、法人の会員、非会員を問わず誰でも参加できます。

### ●活動に参加するには

ぜひ一度サポートセンターにお出でください。すでに始動し、何回か会合をもっているプロジェクトもありますが、これから活動を開始するものもたくさんあります。また、運営プロジェクトであれば特に時期を問いません。話を聞いたうえで、窓口で希望するプロジェクトへの参加を申し出てください。

これらのプロジェクトへの参加は、時間も労力も必要となりますが、たくさんの方ができるなど、労力以上に得るものが多いと思っています。ぜひ、興味のあるところにご参加ください。そしてサポートセンターの運営にぜひご協力ください。お待ちしております。

## 人口減少時代の 郊外住居を考える

二月

話し手：山本 理さん

現職の建築系研究者である山本さんの話ですからなかなか中身が濃い、でも最初に示してくれた「現代住宅双六」から読み解くと何となく言いたいことが分かるような気がしました。

以前の住宅双六は、上がりが“庭つき郊外一戸建住宅”でも今はもっと多様でいいというのです。すなわち、家という箱物を目指すのではなく、どう住まうかを考える時代ではないか・・・そんなふうに理解できました。

わが国の住宅供給の施策は、戦後一貫して核家族単位で行われてきた。その結果、子世代・孫世代にわたり、初期投資と住宅ローンが繰り返され、住宅が社会資本にはなっていないことが問題との指摘もありました。

そこで、山本さんの提案の一つは“郊外だからこそ「隣を買う」という発想、すなわち核家族といったふうに分割され続けた発想に対し、まとめる発想が必要ではないかと言うのです。それが「活性化が持続する街」の形成につながるのでは・・・という考え方にたく共鳴できました。もっと時間をかけてゆつくり聞いてみたい内容でした。

(小林)

## いつも仲間づくりを心掛けてきた 私の生涯学習人生

三月

話し手：安西ハツ子さん

女性初の・・・と多くの役職を歴任された安西さんの話の内容は多岐にわたりました。はじめに「私は昭和48年頃から社会教育に関わり始めましたが、大橋先生（日本社会事業大学学長）と一緒に稲城で社会教育の集いやシンポジウムを開催したことが大きかった」と話されました。

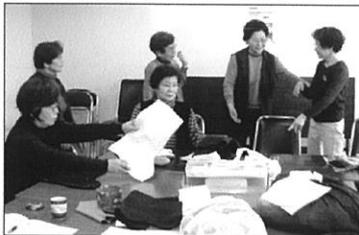
とても印象的だったのは、福祉の原点は子どもの頃にあったという話。昔、三沢川が氾濫し土手が決壊した時、大人が命がけで食い止める様子を見ていましたから、福祉教育は大人がやって見せていくものだと思えますということでした。

PTA活動で地域デビュー、その後も視覚障害者のための“こだま”や“六本の会”を仲間と立ち上げ、“ガイドヘルパー制度”の確立や“おもちゃ図書館トトロ”の設立にも関わってこられた安西さん、その淡々とした、等身大の経験談には、市民活動の原点ともいえる大事なエピソードがいっぱい詰まっていました。

社会福祉協議会の会長になってからは、6か所の“ふれあいセンター”を作りましたが、それは、地域住民の横の繋がりを広めるための拠点、サポートセンターにはそれらをまとめた情報発信の場になって欲しいとの期待も・・・「出会える・生かせる・使える・つなぐ」を早くから実践しておられる安西さんからたくさんのことを学ぶことができた金曜サロンでした。

(稲垣)

## ガンバってます 10



▲楽しくリフォーム作業

リフォームはりほうずは、障害者や高齢者の方々のために体の状態に合った機能的な服を作ってお手伝いをするという目的で活動をしています。  
会の設立は平成14年6月、稲城市社会福祉協議会が開いたリフォーム講習会がきっかけとなり有志が立ち上げました。会員数は現在10名で、作業が苦手でリフォームに興味があれば誰でも参加出来ます。原則月に1回、アイデアを出し合っ

### 機能的な 服づくりのお手伝い リフォームはりほうず

代表：進藤由美子さん

て楽しくリフォーム作業を進めています。  
衣類に限らず、個々の相談に応じていろいろなものを作っています。  
点滴やオムツ替えに便利なファスナー付パジャマ、車椅子の室内用タイヤカバー、防寒用フーツ、片手で着用できるネクタイ など、細かい工夫がたくさん施されたものばかりです。費用は材料費のみで作業費用は無料です。  
前代表の村田さん、現代表の進藤さんは「困っている人や悩んでいる人への会をもっと知ってもらいたい。気軽に相談してもらいたい。そして、そんな皆さんのためにこれからも頑張ってお手伝いをしていきたい」と話して下さいました。《高齢になっても、障害があっても素敵なものを身に着きたい》という方々の思いを大事にして活動をつづけていらつしやる様子が伝わってきました。  
(廣田)

- ◆活動日：第2木曜  
13:30~16:00
- ◆場所：福祉センター
- ◆問合せ先：稲城市  
社会福祉協議会  
ボランティアセンターまで  
TEL 042-378-3800

理事会（運営協議会）

# ほうこく

2月13日と3月12日に理事会を開催し、下記のような議題について協議しました。

## 2月13日 .....

◇事務局・各プロジェクトの報告

◇議事

- 1) 平成19年度事業計画(案)について
- 2) 4月以降の事務局体制について

## 3月12日.....

◇事務局、各プロジェクトの報告

◇利用登録団体の承認

- ①スコーレ家庭教育振興協会
- ②NPO法人アダプティブワールド

◇議事

- 1) 平成19年度予算について
- 2) 事務局体制について
- 3) 情報共有化の方法について

### お詫びと訂正

2月の交流会でお配りした利用登録団体の紹介冊子の23ページ「青少年育成向陽台地区委員会」の文章中、「賛助活動」とあるのは「協賛活動」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

### 好評だった写真展

3月6日～29日の間、サポートセンターで行われた、フォトクラブいなぎによる写真展「いなぎのお花見案内」は、タイムリーな企画だっただけに、大好評でした。見学ありがとうございました。

午後7時～9時

### 金曜サロンスペシャル

■5月11日(金)

- ・話し手：荒木重雄さん  
(稲城国際交流の会々長、元桜美林大学教授)
- ・テーマ：仏教から見るアジア

日本人の心情や美意識の基層とも言われる仏教。インドで生まれアジア各地に広がる中で多様に創りだされた仏教文化を映像で紹介しながら、その全体像に迫ります。

■6月1日(金)

- ・話し手：浜田芳子氏、浜住治郎氏(城山体験学習館々長)
  - ・テーマ：稲城の今昔をフィルムでたどる
- 百村に住んでいた映像作家の浜田英夫氏が撮影した昭和20年代からの稲城の映像を見ながら、自分たちの住む町の昔に想いを馳せ、これからの街づくりについて考えます。

## 編集後記

この度、編集メンバーになった佐藤です。

手芸は得意ですが、ITはちよつと・・・その上フットワークにも自信がない。

しかし入部したからには、出来る仕事を見つけて出して頑張ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

↑ 新メンバーの廣田です。

はつきり言って文章を書くことが大の苦手な私が編集メンバーになつてしまいました。あーあ大変！・・・でも、周りのサポートを期待してチャレンジすることにしました(笑)。よろしく願っています。

↑ 苦手なことはフォローし、得意なことは伸ばしていく。編集部4名はサポートし合つて、みなさまにニュースレターをお届けします。(稲垣)